

## ナラ枯れ対策（おとり丸太設置）の現地検討会を実施しました

山梨県で、令和元年度に初めてナラ枯れ（※注1）被害が確認され、山梨森林管理事務所管内の国有林でも令和2年度に初めて被害が確認されています。被害の範囲は年々拡大しており、特に南部町の国有林では被害量が甚大となっています。これまで当所では、被害対策として立木くん蒸や粘着シート被覆など単木被害に対する手法で取り組んできましたが、本年度に初めてナラ枯れ被害の面的防除対策である「おとり丸太（※注2）」という手法で、被害対策を行うこととしました。

今回、令和5年9月12日に、おとり丸太の専門家である山形大学農学部の齊藤正一客員教授をお招きし、関係自治体と合同での現地検討会及び共同調査を行いました。齊藤教授からおとり丸太の実施方法を詳しく説明いただき、実際に設置されたおとり丸太の誘引効果の調査を行いました。

調査の結果、多くのカシナガが丸太に誘引されており、一定の効果があることが分かりました。出席した関係自治体からは、カシノナガキクイムシ（カシナガ）は毎年増殖するので毎年おとり丸太を設置するとより効果が高いと感じたといった声をいただきました。齊藤教授からは、丸太の量を増やし、来年度以降も引き続き設置することで、よりナラ枯れ被害の軽減につながるだろうとご助言をいただきました。

山梨森林管理事務所では、健全な森林を維持するために来年度以降も引き続きナラ枯れ被害対策に取り組んでいきたいと思っております。

※注1「ナラ枯れ」：カシノナガキクイムシ（カシナガ）が媒介するナラ菌によってブナ科の樹木（ナラ類、クリ、クヌギ、シイ・カシ類等）が枯れること。

※注2「おとり丸太」：健全なナラ類の丸太を被害区域に設置し、カシナガを丸太に誘引することで、立木のナラ枯れ被害を軽減させること。



[南部町内国有林に設置されたおとり丸太]



[設置したおとり丸太の状況]

丸太にフラス（木くずと虫糞の混合物）が出ていることで、虫がいることが分かる。ナラ枯れを引き起こすカシナガか別の種か識別する必要がある。



[現地検討会の様子]



[調査の様子]